

患児が食物アレルギーと共に生きていく体験

岡崎 多夢 (鳥取大学大学院) 谷渕 真也(香川大学)

問題・目的

- ・ 近年、アレルギー(FA)疾患の罹患者は増加 厚生労働省(2011)
- ・ 学校や家族などの他者との人間関係を含めた日常生活で、FA児がどのような体験をしているのかを明らかにする

方法

調査対象者

- ・過去にFAの症状が出現した経験がある者11名
- ・スノーボールサンプリングによる選出

データ収集方法

- ・半構造化面接(50分~90分/回)
- ・(a)食事面で気をつけていること(b)家族との関係(c)症状との付き合い方(d)学校場面で困ったこと(e)友人関係について

分析方法

- ・修正版グラウンテッド・セオリー法(M-GTA;木下, 2007)

結果

1.【家庭は頼れる場】

⇔ 家族以外との食事場面・対人関係では
恐れ・我慢・特別な対処

2. FAとともに“生きる”ことに伴う苦痛

- ・ “アレルギー反応による症状そのものを理解されている”とは感じない
- ・ 症状が見た目にでることの辛さ, 痒みの辛さ
- ・ 慢性的に“自分はFAである”と認識させられる敏感さ

食物アレルギーという疾患への対応と
日々の生活上の苦痛への対応の
両方が重要

